

## 2007 年度静岡健康科学英語研修プログラム (SHEP)

(オハイオ州立大学—2007 年 12 月 1 日～21 日)

(担当講師 Louis Holschuh 作成、吉村紀子訳)

### 概略

SHEP の目標は、静岡県立大学大学院博士後期課程健康科学専攻の大学院学生に対し、英語での国際会議に積極的に参加し、英語で効果的なプレゼンテーションができるようにトレーニングやプラクティスを提供することである。3 週間の研修期間中、すべての英語スキルを学習できるように、特に、リスニング、スピーキング、プレゼンテーション、ディスカッションのスキル向上に焦点を絞って、指導を行った。学習内容については、可能な範囲において、健康科学の分野に関連したものを取扱うように配慮した。学生たちの研究はプレゼンテーションのトピックとして活用した。

### 使用テキスト

Seal, *Academic Encounters: Human Behavior*

Espeseth, *Academic Listening Encounters: Human Behavior*

King, *The Big Picture: Idioms as Metaphors*

Hagan, *Sound Advice* (2<sup>nd</sup> edition)

Morley, *Listening Dictation*

### カリキュラム

授業は月曜日～金曜日、一日 3 時間で、金曜日はクラスでのレポートや英作文について個人指導を行うためにチュートリアルを実施した。以下は主な学習活動のまとめである。

基礎リスニング・スピーキング—Listening Dictationの練習問題はクラスで終了させ、参加者は音声テープ等を利用して追加の練習問題もそれぞれ行うよう指導した。聴解力、発音、流暢さの向上を図りつつ、基本文法の復習をおこなった。また、*Sound Advice* を用いて、英語の理解に欠かせないストレス、リズム、連続音の結合等の練習をおこなった。

ゲストスピーカーによる講義—以下の 3 名による招待講演 (健康科学関連) を実施した。

講演は、参加者からの質疑応答、そしてディスカッションと展開した。

[講演者と演題]

Stephen Rosenstiel, The Ohio State University – The safety of dental amalgam

Karl Romstedt, Capital University – Cancer

Margaret Ginn-Pease, Capital University – Enzymes

スピーキング力向上のためのグループ活動—参加者のスピーキング力及び自信の向上のため、毎週、以下のようなグループ活動を行った—例えば、物語の作成、グループ同意活動、即興スピーチ。

リーディング・ディスカッション—アカデミックなトピックについて議論できるように、Academic Encounters 掲載の論文を読み、内容についてグループで討論した。その際、以下の場合に役立つ機能語句や表現—例えば、理解できない、他者の参加を促す、同意する、反対する、話題の転換、議論を前に進める、不明点を確認する、意見を述べる—を練習した。

プレゼンテーション—参加者はプレゼンテーションを4回おこなった—(1)公式な自己紹介あるいは友人紹介、(2)インターネットからの論文の概要発表、(3)各自の研究分野で用いる概念の説明、(4)各自の研究概要の紹介(一般者対象にして)。効果的なプレゼンテーションのスタイルや方略に学習の焦点を絞った。特に(3)と(4)については、チュートリアルにて一人ひとり復習を行うと同時に、ファイナルプレゼンテーションについては事前に練習した。なお、ファイナルプレゼンテーションには、中山峰治氏(オハイオ州立大学プログラムコーディネーター)、本研修プログラムALP責任者、吉村紀子氏(静岡県立大学プログラムコーディネーター)が参加した。

ライティング—参加者は上記の4つのプレゼンテーションの要約を書き、その英作文はチュートリアルにて添削された。なお、ライティングについては特別な活動を行わなかった。